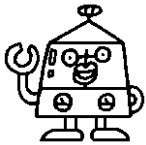


## お母さんの体内の<sup>らんし</sup>卵子は、いつごろできるの



卵子は、お母さんが赤ちゃんで生まれたときから、もう、体の中に用意されているんだよ。

女の子の体には、卵子のもとが約200万個用意されている

お母さんが赤ちゃんで生まれ出てきたとき、もうその体内には、卵子のもとが用意されています。その数は、一人あたり、およそ200万個といわれています。

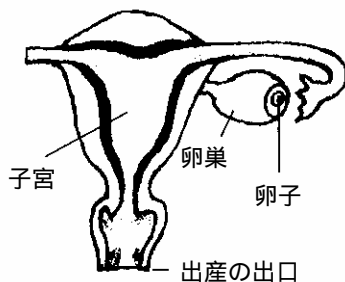
女の子が10才前後になると(人によって、早いおそいがある)、少しずつ胸(乳ぶさ)がふくらんできて、体に丸みがつき、大人の女性らしい体つきになってきます。これらの体の変化は、<sup>らんそう</sup>卵巣というところで作られる女性ホルモンというものはたらきで起きているのです。

ちゃんとした卵子ができるのは、大人の体になるころ

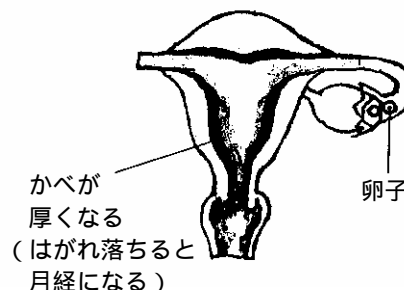
このころになると、女性ホルモンのはたらきで、毎月1回、卵巣から卵子が、子宮に送られるようになります。すると、<sup>しきゅう</sup>子宮の内側のかべは<sup>あつ</sup>厚くなり、<sup>じゅせい</sup>受精した卵子がくっついて赤ちゃんができるような準備が、ととのえられます。

卵子がくっつかなければ、やがて厚くなっていた子宮のかべがはがれ落ちて、体の外に出されます。これが、毎月起きる<sup>げっけい</sup>月経(生理)です。

卵子が送られるようになると、赤ちゃんを産める大人の体になったといえます。大人の女性は、一生の間に、およそ400~500個の卵子を出すといわれています。



卵巣で卵子ができる



卵子が子宮へ送られる

もっと知りたい人へ：「赤ちゃんは、おなかの中でどんなふうになっているの」も見てみよう。